Community & Friend
2024 年 1 月号
有限会社アルファー
大阪府高槻市氷室町 4-13-3
吉田 清一郎
過去の月間通信は https://www.alphar-net.com/monthlymail.htm

謹賀新年

昨年中は、弊社事業に御尽力いただき、
まことに、ありがとうございました。
本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、月間通信 2024 年 1 月号をお送り致しました。

いきなりで恐縮だが、画像のキッシンジャーという名前を知ったのは、国務長官時代だから1972 年だったと思う。田中角栄が電撃的に中国を訪れた事で、その前に訪中していたニクソン大統領と、根回しをした彼の名前がクローズアップされた。というのは、その後ロッキード事件を起こされ田中角栄は政治生命を絶たれたからだが、具体的に何が気に障ったのか未だによく分からない。ただ力がある事だけは、何となく印象付けられた。100 歳だったらしい。年齢からすると田中角栄より 5 年遅く生まれていると Wiki には書いてある。

Henry A. Kissinger の A.は Alfred だそうだ。1923 年の生まれで、李鴻章は 1823 年の生まれだから歴史は丁度 100 年の差がある。差があるからこそかもしれないが、Kissinger は李鴻章の外交を参考にしていたのではないかと勝手に想像している。

李鴻章が遺した事といえば多々あるが、英国との南京条約締結、つまりアヘン戦争を仕掛けられ、破れて香港の割譲を決めたことが No.1 だ。何で自分の領土で好きなことをされ、トラブルになったからその客人をやっつけたら戦争になるのかよく分からないが、気が利いているのは、その解決策を互いに、西太后とエリザベスという、それぞれの女主人のメンツを立てながら講和するのに、99 年間、租借という期間を設けた事かな。

Kissinger が、この歴史事実を知らない訳が無かっただろう。『分捕られた』では西太后が許さないだろうし、エリザベスを想うと半端な事では鉾を収めそうにもない。そこで考えついたのが、あげるのでもない、貸すのでもない、99 という数字が持つ力を利用して、双方の女主人を煙に巻いた、この発想を学んだのではないかと思う。多分中国では九十九という数値に永遠の意味を持たせていると思う。だけど、永遠ではない。数値で区切られている以上、99 年は有限だ。

煙に巻くだけなら李鴻章は、自分の意思が何処にも無く満足できなかっただろう。国ではなく自分を満足させるためには、賃料を取らなければならない。私ならそう思う。で、どのように賃料を取るかというと、その 99 年間に英国が香港に投資した分、すべてを手中に収めることが出来る、と考えたのだろう。これで分かる人からすれば李鴻章個人のメンツも立つことになる。

で、訪中の目的は米中平和友好条約締結だったと思う。田中角栄が嫌われたのは、この米中より先に日中平和友好条約を締結したことにあるのかも知れない。そんなことはどうでもいいが、この米中のニクソン・キッシンジャーと毛沢東・周恩来の会談で、ソ連とのこと、ベトナム戦争のこと、沖縄返還のこと等が決められたと思う。ついでに日本のこと。中国共産党にしてみれば、行儀は良いが、イザとなれば、とことん牙を剥いて来る日本は厄介の種だろう。

これには、『日本は米国が簡単に抑え込める』とでも話ししたのだろう。沖縄返還時に尖閣諸島の帰属も、客観的に歴史から見て、日本にあると言わなかったのは、将来に使えるように明言をしておかなかったのだろう。99 年後ではなく 50 年後の成果である。

50 年後の成果といえば、台湾問題がある。毛沢東はあくまで台湾は中国であると考えていて、訪中時それで Kissinger も了承をして帰って来ている。つまり、中台戦争はあり得ない、治外法権の『内戦であるだけだ』が米国の立場である。尖閣諸島だけではなかった。台湾問題も日本が顔を突っ込む事になるのか。そうだとすると尖閣諸島問題は台湾有事の際、日本に顔を突っ込ませるネタに使うつもりか。

問題は、Kissinger が毛沢東・周恩来の二人に、『50 年後に中国共産党の軍事力が米国並みに追い付いた時、アジア覇権は任せる』と約束して来ている事だ。我がアルファーは 5 年後も見渡せないのに、彼等は 99 年後や 50 年後を見透かしている。となると、南北朝鮮間も米軍が日韓から退いた後、中国の支援を受けて北から南下して来て半島を統一してしまう可能性が出て来た。その様に考えれば、安倍は無駄死になる。先日、客人を名古屋で迎えた時、言っていることは直ぐに想像がつき、菅や二階堂が岸田を下ろそうとしたら、バイデンは『これは不味い』と思ったのか、何でも言いなりに聞く岸田を、国賓級として 4 月に迎えると言って来た。それだけではなく、相変わらずの手で安倍派を国会でさらし者にして力を奪おうとしている。情けないほど、政治レベルが低い。

そうそう、随分話しが逸れたが 100 歳『だった』と書いたのは、先月の初め Kissinger が死んだと思わせる文に出会った。調べてみると本当だった。今回ではなく、前回原油が高騰したのは何年頃だったか。その時 Kissinger は原油価格が 150 ドルまで上がると言っていた。だから、其処が打ち止めだと思っていて、その通り 147 ドルから下降して行った。動かす力の無いものの言うことを聞いていても仕方が無い。動かす力のある人間の言うことは、そう遠くない未来にそのようになることを示している。

そのように世界を見てみると、表立ったところはこの 50 年 Kissinger が動かして来たかも知れない。それくらいのインパクトを以って自分のなかに入って来ていた。子供の頃に『自分の目の黒いうちに事を為せると思うな』という言葉に出会ったことがある。その時は『随分、大きな物言いをする人だ』と思って聞いていたが、本質的な事というのは、それくらいの時間を掛けて考え、その方向に僅かでも歩く事なのかもしれない。

ドルが基軸通貨でなくなる。米軍が世界から撤退する。Kissinger が死んだ。令和 6 年、確かに昭和は遠くなった。波を押し返すより波に乗って方向を変える方が簡単そうだ。どの時代の何を背負おうが、為せることと為せない事とがある。為せる事に一所懸命になり、為せない事は忘れたふりをしていればいい。

どのみち米国はイスラエルの言う事を聞かなくてはならないし、日本は米国の言う事を聞かなくてはならない。この事が分かっているだけでも、為すべきことが分かるはずだ。有史以来とは言わせない。そもそも有史の史とは、領土欲、資産欲に貪欲な連中の歴史を言う。その歴史を以って、人間は生まれながらにして欲を満たす為に生きていて、その為の支配だとは言い過ぎで、共存こそがすべてだ。国は国民の為であって、国の為の国民ではない。彼らには、祇園精舎の鐘が聞こえないのか。真理には違いないと思うが、鴨長明の方丈記では敗者の論理にしか聞こえぬ。もし、勝者と敗者に二分するとなると、そのどちらでもない者が、ムツゴロウの言う哀しい犬社会の『寂しい犬』という存在になる。

では、Kissinger は勝者か。田中角栄は敗者か。李鴻章は寂しい犬か。先日日本経済新聞の記事で、AI の発達で人間が労働から解放され、ベーシックインカムで暮らす時代の、生きる意欲の問題が何処に向かえば良いのかって、無気力になるようなことを言っていたが、この方には秋に紅葉し、やがて落葉する意味が理解できないのだろうと思う。

有限会社アルファー：吉田清一郎